

2014年8月29日 最後から2番目の会議にあたり・・・

## 「子どもの権利」の明記を願います。

加藤進

- 【1】日本で1番、子どもたちが主人公の街にしたい。それが函館の特色。
    - ・ 子どもが主人公。子どもの権利が大切にされる。
    - ・ 大人たちがつくる街の、大人たちのルールの中で育つのではなく、
    - ・ 文字通り子どもたちが主人公の街にしたい。
  - 【2】子どもたちが主人公とは
    - ・ 子どもたちが主体的に権利を持つことを大人たちが認識すること  
→ 決定的に足りないと思う。
    - ・ 様々な事件も「子どものくせに」に由来しているのではないか。
  - 【3】人権ではなくて、「子どもの権利」なんです。
    - ・ 人権だと子どもも含まれるが大人もお年寄りもとなり薄まってしまう。
    - ・ 権利がぶつかり合った時にどのようにジャッジするのか。  
→ 子どもの権利を優先したい。
    - ・ 人権の中でも子どもの権利に焦点を当てるところに、子どものための条例をつくる主眼がある。
  - 【4】条例の名前は「子どもの権利条例」のように、「子どもの権利」をしっかり入れたい。
- 

- 【5】いじめ・自己肯定感問題の見方
  - ・ まず、第1に子ども自身が「自分には安心して、自信をもって、自由に生きる権利がある」と自覚すること。
  - ・ その権利は自分だけじゃなく、他のみんなも持っている事。  
この2点を予防教育として、全ての学校で実施したい。CAPなど。
- 【6】デジタルデバイスの利用を制限すべき
  - ・ ネットパトロールなどは通用しない。クローズドな世界、大人の知らない世界で大変な事態が進んでいる。
  - ・ 使い方や時間を考えよう・・・レベルではなく、たばこ並の「重大な事件につながる可能性を持っています」のような警告が必要と思う。